

平成 27 年度第 1 回千歳市卸売市場運営委員会 議事概要

日 時：平成 27 年 8 月 3 日（月）13:30～15:15

場 所：千歳市役所議会棟 2 階大会議室

出席者：＜委 員＞島委員、石川委員、亀谷委員、渡瀬委員、市川委員、中田委員、
元木委員、松坂委員、増子委員、奥山委員、四方委員、喜多委員
＜事務局＞井手産業振興部長、内山産業振興部次長、佐藤公設卸売市場長、
林管理係長

1 新規委員委嘱状交付

横田副市長より、新たに委員に就任した 2 名に委嘱状が交付された。

2 挨拶

横田副市長

3 議事

(1) 卸売市場の状況について

事務局から、資料 2「卸売市場の状況」、資料 3「千歳市公設地方卸売市場の状況」に基づき説明を行った。

＜質疑及び意見＞

(委員長)

資料 2 において卸売市場を取り巻く環境として何点か挙げられているが、マイナス要因ばかりである。プラス要因はないのか。

(事務局)

マクロ的にはプラス要因となるものは考えにくい。しかし、このような状況のなか、コンビニや量販店への納品を行う事業者があるなど、時代に即した新たな取組を行っている事業者もある。

(事務局)

資料 2 にある人口減少については、私どもだけでは如何ともし難いが、社会構造の変化による加工品消費の増加については、野菜等をそのまま販売するのではなく、それらを加工して販売することで市場の役割を果たそうという動きが出てきている。

また、流通構造の変化ということで直売所での販売が増加している件については、消費者が毎日直売所で野菜等を購入するわけではないことから、大学教授など研究者の一部では、それほど影響はないとの考えも示されている。

資料で説明した事項については、あくまでも一般論であり、全ての市場に同じく当てはまるものではないと考えられる。

(委員長)

外食、加工品消費が増加している点が、個人的には最も気になる点である。健康の面からも新鮮なものを消費していくことなどを消費者に啓蒙し、それらを提供していくことで、市場の役割を果たし、活性化につながっていくものと考えている。

(委員)

市場の仕組みは、公正で公平な価格形成という点で素晴らしいものであり、生産者、消費者にとって必要な仕組みである。食の安全、安心を確保するためにも、市場の生き残りは必要であると考えている。

(委員)

市場外流通についてテレビ等で報道されているとおり、大手量販店等が自分たちで農園を保有し、そこで採れた野菜などを直接店舗に運び販売するという手法を行っているが、採算が取れなければ、すぐに撤退してしまうのが現状である。安全、安心なものを安定的に提供するためには、市場制度を維持することが必要であり、そのためには市場外流通への対応も重要である。

(2) 今後の方向性に関する検討経過について

事務局から、資料 4「千歳市場の今後の方向性に関する検討経過」に基づき説明を行った。

<質疑及び意見>

(委員長)

市場関係者の方にお聞きする。取組目標として 3 項目が挙げられているが、達成の見通しはどうか。

(委員)

今年度は第一四半期が終わった時点において、取扱量、金額とも順調に推移しており、達成可能ではないかと考える。

(委員長)

今までの経過を見ると、市場の今後のあり方について、市としての具体的な考えは示されていない。あくまでも、25 年度からの 3 年間の実績により今後の方向性を決定するということか。

(事務局)

市場の売上高、取扱量が減少傾向にあり、施設の老朽化も進むなか、全国の卸売市場で運営主体に関して様々な手法がとられていることから、21 年度、22 年度に運営手法も含めた調査を行っている。これを踏まえて 23 年度には、運営委員会から、今後の市場のあり方についての意見報告書を提出いただき、24 年度には庁内検討会議を立ち上げ議論を行った。これを受け、市としては、25 年度からの 3 ヶ年で市場活性化に取組み、その結果をみて、28 年度に今後の方向性を決定することとしている。

(委員)

3 項目の取組目標をクリアしたとしても、施設の老朽化等も含め様々な問題点があると思う。施設の改修、修繕等についても今後協議していく必要がある。誰が市場の存廃を決定するかは分からないが、3 年間懸命に市場活性化に取り組み、実績をあげたにも関わらず市場が閉鎖するという事にはならないと考えている。

(3) 市場活性化の取組について

①取組に対する評価 (平成 26 年度分)

②取組予定 (平成 27 年度分)

事務局から、資料 5「売上高向上策に対する取組の評価 (平成 26 年度分)」、資料 6「売上高向上策に対する取組予定 (平成 27 年度分)」に基づき、①及び②について一括して説明を行った。

<質疑及び意見>

(委員)

流通構造が急速に変化してきている中で、市場の価値が問われている。地域における市場の価値についての発信力が不足しているのではないかと感じた。市場がなぜ必要なのかをより PR するような取組を重点的に行ったほうがよい。

(委員長)

千歳市場の強みは何なのかを明確にし、それに特化した事業等を実施することも重要である。

(委員)

資料を見て、説明を受けた限りでは、非常に頑張って活性化に取り組んでいると感じる。様々な市場を見てきたが、どこの市場も大変な状況にある。安値を求める消費者の意識があるため、大型量販店が大量に安価で仕入れている。国産野菜や国産肉が高いと言われるが、生産者のことを考えると適正な値段といえる。消費者にもその点を理解してほしい。

他の市場の取組としておもしろいと思ったのは、市場の食堂を一般の方に開放し、市場の生鮮食料品を材料にした食事を提供している取組があった。千歳市場感謝祭と同じく市場を一般開放する取組も多く市場で行われている。市場の機能や役割について、一般開放など人が集まるときに説明等を行うのは、消費者に市場を理解してもらう意味で有効である。

(委員長)

活性化を進めるためには、消費者のニーズを的確に把握する必要がある。消費者は何を求めているのか。

(委員)

安全、安心なものを食べたい、地元産のものを食べたいという思いは誰もが持っており、それらが高値であるというのも理解している。しかしながら、どうしても安さを求めてしまう傾向がある。

(4) その他

事務局から、次回の会議は2月頃の開催を予定している旨報告があった。

また、委員長が次回会議を公開で行うことを提案、意見を求めた後、全会一致をもって了承された。

以上